

1958 (昭和33年)

会員数33名

7代理事長

平田久市



前年度まで商工会議所が行っていた「新年名刺交換会」をこの年より青年会議所が主管運営する事になった。愛宕山公会堂において1月1日市を代表する政・財界・知識人百余名の出席を得、新平田理事長の挨拶に始り会は盛大に開催され、大成功を納めた。

翌年より名称を「新年合同祝賀会」と改め爾來今日まで青年会議所の重要な継続行事の一つとなって続いている。またその席において新理事長就任披露も兼ねて行なうようになった。

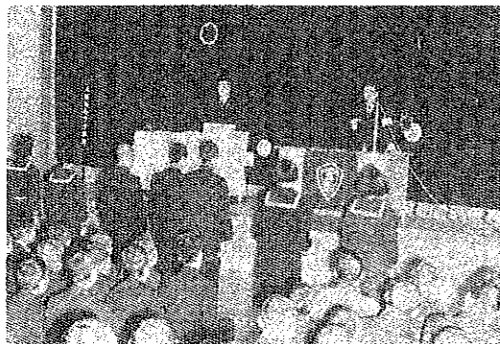


青年会議所が主管した第1回新年合同祝賀会

1月19日定時総会を開き一年間の事業計画・予算等を決め、その計画を遂行し、12月の総会において決算・事業報告を行なって一年間を締めくくる現在のスタイルはこの年より行われるようになった。

何と言ってもこの年から始った大きな事業の一つに「勤労青少年の門出を祝う会」がある。

義務教育終了後直ちに就職、又は家事に従事する勤労青少年の動向は、我々の最も関心深いところであり青少年が実社会の荒波の中に巣立って行くに当たり、この会を開催してその前途を祝福し、社会人として、産業人として一層の成長を続けるよう新しい出発への決意を促したいという主旨のもと企画実施された。



第1回勤労青少年の門出を祝う会で挨拶をする平田久市理事長

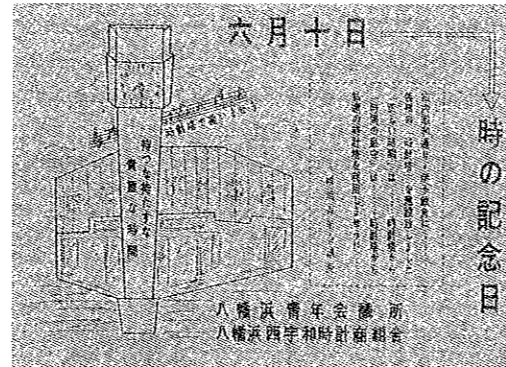
第一回勤労青少年の門出を祝う会は3月16日、松蔭小学校講堂において市教育委員会・PTA連合会・公共職業安定

所の後援で、市内8校の中学校より五百三十名の卒業生が出席し会は盛大をきわめた。後に就職先よりJCに感謝とお礼の手紙を寄せる者もあった。

この事業は昭和43年まで続き、やがて市に移管されるのであったが、平田理事長が八幡浜市長となって19回目より再び巣立ちゆく青少年に励しの言葉を送る事となった。

青年経済人として「時は金なり」の金言を基にし、新生活運動の一端とし市民PRの為、時計塔建設を計画し、前年度の全国特産土産品展示即売会、名士隠し芸大会に続き、バザーと写真展を新町ロンドンで4月12日に行った。

これらの収益金を合せ6月10日に中心伊予鉄角に建設。除幕式・祝賀会を挙行了した。この時計塔は市民から大変喜ばれ親しまれた。



時計塔完成時に記念に市民にPRしたチラシ

7月例会を兼ねて行なわれた「滑床一夜講習会」の際、日本大学校友会より要望のあった日大リズム・ソサエティーとハワイアン大演奏会を主催、後援を行う事を定め、8月18日公会堂で催し、収益金を不足していた時計台の経費にあてた。

9月28日は第6回少年野球大会を松蔭小学校グラウンドで、10月20日みなと祭の仮装行列は「浜は大漁」で出演、11月8日から3日間国際児童图画展を開催、しかし時計塔建設資金はまだ不足であった為、市民隠し芸大会に引続き11月30日市民芸能大会を行った。

入場料百円、高田鶴一郎氏の「浪花節」、国産ケチャップ高橋博氏の手品・高田重二氏宇都宮隆栄氏の小唄やメンバー兵頭平吉・宇都宮清氏のロカビリーや平田豊次氏の寸劇等面白く客を沸せたが、最後にメンバー熱演による推理劇「犯人は誰だ」は好評だった。平田理事長の演出で、毎夜練習を行ったこの劇のキャストは、探偵・村上恭三・助手・平田久市・おかま・片山武弘、こじき・菊田峯保、左きき工具・山本弘、公史・松本武泰、駅員・宇都宮清の各氏によるものであった。



メンバーがダンスの練習に通った高岡バレエ教室

1959 (昭和34年)

会員数23名

8代理事長

片山武弘



八幡浜青年会議所30年の長い歴史の中でこの年会員が23名という最も小人数の年であった。

20代の若さで理事長となった片山武弘氏を、メンバー同一致団結し数々の事業を消化していった。

昨年より受け継いだ新年名刺交換会を新年合同祝賀会と改め1月1日名士二百名の出席のもと新理事長の所信表明よりスタートした。

2月5日平田貴一・魚本文一・浜上忠義三氏を招き「OBを囲む座談会」を催し、各氏に色々アドバイスを受ける。

3月2日「第2回勤労青少年の門出を祝う会」は昨年松蔭小学校であったが、この年、映画を上映する関係から平和館に会場を移し開催した。広い劇場で生徒約六百名の出席で行われるこの催しも、ますます盛大になってゆき、内容も充実して行った。

片山理事長が就任の際、モットーにしていた「住み良い街づくり」の一環として都市美化運動を行った。

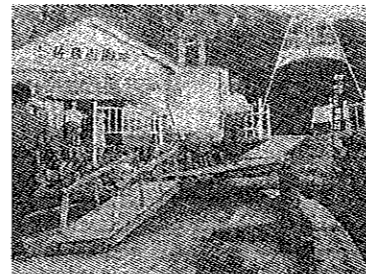
先ず事業資金捻出の為3月14日ときわ食堂で「都市美化運動資金募集バザー」を開催した。

その日早朝午前3時から準備を始め、8時に開店、夕方7時まで行ったが、千五百名程の客があり、まるで店内は戦場のような忙しさでメンバーは、客の対応に大わらわであった。

このバザーによって得た利益金が3万円、それに事業費を加え、さらに市の協力を仰ぎ、高さ一・五メートル、横一・二メートル、奥行一メートルの大きなゴミ箱を市内10ヶ所に設置する事となった。

7月26日海水浴場として開発された佐島に於いて夏期家族会を行った。

この一番大きな事業となったのは、近衛管弦楽団大演奏会である。

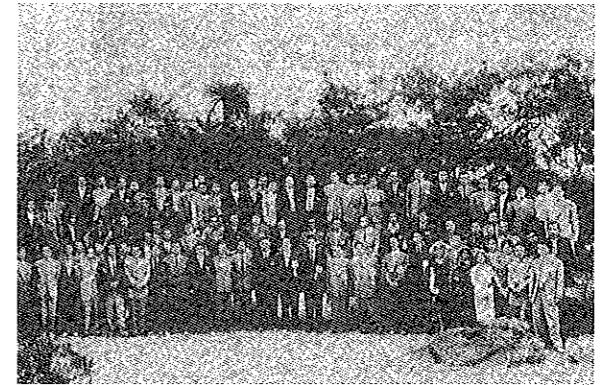


夏期家族会は夢の佐島で



大成功を納めた近衛管弦楽団演奏会のポスター

第6会四国地区大会に出席
徳島で行われたこの会に会頭の千宗興氏が出席



この演奏会は当初県教育委員会より八幡浜教育委員会へ依頼があり、市教では費用の面から八幡浜での開催には難色を示したが、県の方から新居浜・今治・松山・八幡浜の各地に是非開催したいと強い要望があり、八幡浜社会教育課長の中岡氏より片山理事長にこの話を持ち込まれ、JCが主管してほしいと申し入れがあった。

さっそくJC内部で協議した結果、八幡浜青年会議所が赤字覚悟で受ける事に決定、専門委員会を設け準備に当たった。

会員数は少なかったが結束は堅く、10月23日松蔭小学校講堂において昼夜二回、二千九百名の入場者を得、盛大な大演奏会となり、心配していた赤字は10万以上の黒字となって会計に記された。

大成功に喜びあう片山理事長以下メンバーの面々、少数メンバーが一層強い友情で結ばれた。

みなと祭の仮装行列は「アベコベ珍道中」で出演、片山理事長が紳士、弁慶・三瀬静一、牛若丸・上田英彦、奥さん、平田久市、御主人・松本武泰、子供が松本栄、丹下左膳・村上恭三、旗本退屈男・宇都宮清、こじき・平田豊治、桃太郎・津野敏樹、鬼・菊池公孝、田中義孝、警察署長・金本一彦、どろぼう・菊田峯保の各氏が凝った衣装で町をねり歩いた。毎年凝った衣装とアイデアで参加する八幡浜青年会議所の仮装行列は市民の好評を博していた。

この年はメンバーが少なかったため仮装に参加の人数もわずか14名の少数でいささか寂しかったが、会員は大いにハッスルし、青年会議所の心意気をみせた。



「アベコベ珍道中」の仮装の会員